

E-15 屋内の壁に生えるカビの種類について

東京家政大 ○神野節子 安部民子

目的 我が国の屋外・屋内の壁に繁殖しているカビについてのまとまった研究はほとんどない。一方、鉄筋コンクリートの建築物の増加、冬期の暖房の普及などであり、屋内の壁のカビによる汚染は急増している。しかも、これらのカビの中には小児ゼンソウのアレルゲンとなるカビがあるとの報告もある。また陶器、衣類、塩化ビニール、冷蔵庫の塗飾や金属上のペイントにまで繁殖して変質させるので、それらのカビの防止には無関心でいられない。そこで ①一般にどんなカビが壁に繁殖しているのか、分離頻度の高いカビは何か、②壁の材質と汚染カビとの間の特異性、③分離カビの生理的特性—特に繁殖可能至適相・温度・湿度・栄養要求について、④我国の分布(今回は東京を中心に)

方法 (1)壁からの汚染カビの分離法: ①滅菌ピンセットで検体壁の少量を採取。滅菌シャーレに入れる。予の煮とかした約45°CのMAまたはCA培地を注入。混和、平板とする。(b)MA, CA平板培地を作成。滅菌白金耳を用いて汚染壁からカビを鈎菌して塗抹。(c) aとbの培養は25°Cで約3日。平板上の単離コロニーを純粋培養。(2)分離菌の同定ならびに生理的特性の検査は常法によった。

結果 壁から分離されたカビの大部分は黒〜褐〜灰〜オリーブ色など不完全菌で、セルロース、ケラチン分解菌。分離頻度の最も高かったのは *Cladosporium cladosporioides*。材質別ではペイント壁 *Cladosporium*, *Stachybotris*, 砂壁には *Ascremonia*, 木材塗飾壁からは *Trichoderma*。増殖可能湿度は結露状態、温度5~30°C, PH 3.0~8.0。